設問 4．a．目的語 us の後ろに to 不定詞が続いていることに着目する。enable *A* to *do* で「*A* が～することを可能にする」の意味になる。主語 It が直前の文の language を指すと考えれば，「言語によって我々は体験を記録し共有し，新しいものを計画できる」の意味となり文意が通る。前後の文の時制に合わせて現在時制で表すのが適切だから，enables が入る。

b．主語 His understanding「彼の理解力」の具体的な内容は，コロン（：）以下で「カンジは約 3,000 の語彙に答えると言われている」と述べられている。一方，動詞の目的語 what he is able to produce himself「彼自身が作り出せること」とは，第 6 段第 2・3 文（Kanzi is a … wants to do.）から，限られた数になると推測できる。したがって，exceed「～を上回る」を入れれば文脈に合う。前後の文の時制に合わせて現在時制で表し，exceeds が入る。

c．目的語が complex commands「複雑な命令」であるから，「～に従う」の意味の follow を入れれば文意が通る。助動詞 can があるので，原形が入る。

d．目的語は the ability to form new words「新しい言葉を作る能力」である。前後の文で Koko「ココ」の能力を紹介しているから，demonstrate「～（感情・性質・能力など）を示す」を入れれば文脈に合う。直前や直後の文の時制に合わせて過去形が入る。

設問 5．Ⓑは動詞 identify「～を特定する」の目的語になっていることに着目する。文頭の When の後ろには主節の主語と同じ he と be 動詞 was が省略されているので，When で始まる節は「彼は～を特定するように求められると」の意味になる。一方，主節の he 以下は「彼は『ウール』や『石』や『紙』と正しく答えることができた」の意味。Ⓑは，疑問詞 what で始めて，主語を an object「物体」，動詞部を was made of ～「～でできている」にすれば，「物体が何でできているか」という節ができる。過去分詞で始まる句 presented to him「彼に提示された」を an object の直後に置いて，「彼に提示された物体」の意味となる主語のかたまりを作る。間接疑問文なので，be 動詞 was は主語のかたまりの後ろに置くこと。

設問 6．下線部(3)は「この動物たちが成し遂げたことが正確には我々に何を伝えているか」の意味。「この動物たちが成し遂げたこと」とは，第 5 ～ 7 段で述べられた内容を受けたもので，下線部(3)の直後の文（They have been …）で述べられているように「訓練された動物が話し言葉や身振りに反応し，それらを作り出すようになった」ことを指している。これについて，第 8 段第 3 ～ 6 文（But are they … on natural abilities.）で「動物に言語を真似るよう教えることで，コミュニケーション能力を知ることはできない」という批判的な意見を紹介している。一方で，第 9 段では，第 1 文（On the other …）で「言語と知能は切り離して考えることができる」と述べられ，同段第 2・3 文（Teaching language to … their memories work.）では「動物に言語を教えることで，動物の知能について学ぶことができる」という内容が述べられている。さらに，最終段では「言語が人間特有のものなのかどうかという疑問の答えにはなっていない」という考えが示されている。よって，「この動物たちが成し遂げたことから我々は動物の知能について知ることができる」と言える。(ア)「動物の知能」が正解。

4　**解答例**　The author believes that artists are so sensitive that they can quickly detect and respond to unusual changes in the environment and society, however subtle these changes are, and that they understand other people's problems or feelings. In addition, artists are good at solving problems without clear solutions because they are flexible and always ready to handle anything by themselves. They can work with what they already have in any situation.（70 語程度）

◀解　説▶

設問の訳：芸術家が得意だと筆者が考えている 2 つのことについて 70 語程度で説明しなさい。

日本語の本文は第 1・2 段と第 3 段の 2 つの部分に分けられる。芸術家が得意なことの 1 つ目は第 1・2 段から，2 つ目を第 3 段から説明できる。

第 1・2 段は芸術家が周囲の変化に敏感であることに関連するもの。第 2 段第 3 文の「環境の，社会の，微かな異変，あるいはその徴候に，濃やかに感応する」能力を芸術家が得意なこととして挙げることができる。さらに，第 2 段最終文の「芸術にはそういった深い慈しみや包容力もあります」という内容も加えておきたい。「そういった」とは直前の文の内容を

指すから，芸術家は問題を抱えている人や困っている人の声に反応すると解釈できるだろう。〔解答例〕では，understand other people's problems or feelings「他の人々の問題や感情を理解する」と表現している。

得意なことの２つ目としては，第３段最終文に「そうした手業に長けているのが芸術家です」と述べられている。「そうした手業」とは，第３段第１～４文の内容が該当する。〔解答例〕では，第３段第２文の内容を artists are good at solving problems without clear solutions「芸術家は明確な解決策がない問題を解決するのが得意である」と表現し，第３段第１文の内容も加味して，because they are flexible and always ready to handle anything by themselves「なぜなら，柔軟で，自分の力で何にでも対処する心づもりが常にあるから」と説明している。〔解答例〕の最終文は，第３段第３・４文をまとめたもので，「たとえ『想定外』のことが起こっても」と「食う，着る，…に思いもよらない事態が生じても」を in any situation「どんな状況においても」と言い換えている。

日本語の表現をひとつひとつ英語に直す必要はない。筆者の考えを把握し，自分が使える英語で表現することが大切である。

❖講　評

2021 年度も，長文読解問題が３題，英作文問題が１題，試験時間は 100 分という例年通りの形式であった。

1は，表情から読み取れる感情について論じた英文。英文和訳の設問１・設問２とも，大意はつかみやすいが，構文を正しく把握して自然な日本語に直すのは難しい。

2は，スマートフォンが我々から奪っているものは時間だけではないという，読みやすい内容の英文。設問２の英文和訳は，単語 drag の意味を正確に知っているか，知らない場合に文脈から推測できるかが鍵となるだろう。

3は，言語は人間特有のものかどうかについての英文。英文の量が多く，挿入されている話題も複数あるので，読みにくいと感じたかもしれない。設問１の内容説明や設問３の英文和訳では，当該英文に日本語に直しにくい英語が含まれている。設問２と設問６は解答の根拠を見つけるのが難しい。

4の英作文は，例年通り，筆者の主張を整理するところから始める必要がある。2021 年度は語数が示され，内容を絞り込む必要もあった。日本語の表現や言い回しにとらわれることなく，英語で表現できる構文や語彙を用いて文章を再構成する力が要求されている。

全体としては，記述問題が多いために 100 分の試験時間でも余裕はない。先に設問に目を通して，上手に時間配分をすることが必要である。